

目次

はしがき……………松尾聰……………一

研究篇

桐壺卷異文考証……………吉岡曠……………七

薄雲卷における冷泉帝の罪をめぐる……………斎藤暁子……………五

浮舟の出家……………阿部俊子……………二〇

源氏物語の父……………沢田正子……………二七

源氏物語の和歌——その史的位相——……………後藤祥子……………二七

『源氏物語』と藤原定家、親忠女及びその周辺……………久保田淳……………二〇

『源氏物語歌合』の伝本と本文……………池田利夫……………二五

源氏資料篇の日本と本文

新田 隆夫……………三

『源氏物語歌合』翻印二種……………翻印池田 利夫……………三五

源氏神話の麻痺……………

斎藤 蒼……………三五

源氏神話の父……………

尾田 五子……………三五

源氏の出家……………

岡本 武彦……………三五

源氏物語の源氏と源氏物語の源氏……………

斎藤 蒼……………三五

源氏物語異文考……………

吉岡 潤……………三五

源氏物語

源氏物語……………

源氏物語……………三五

目次

# 研究篇

## はじめに

一、「桐壺卷異文考証」と題したが、本稿は、その手はじめとして青表紙本と河内本との異文を比較対照しながら両本文の文体の特質を明らかにし、ひいてはその範囲内で、可能なかぎりそれぞれの本文と原文との距離を測定することを目的とする。

一、青表紙本の本文は『源氏物語大成』の底本である池田本に拠るが、明融本によって八箇所ほど訂正した。<sup>(注1)</sup>

一、河内本は尾州家本に拠り、二箇所は欠丁部分は高松宮家本で補なつた。<sup>(注2)</sup>

一、両本文の本文対立箇所は四百五十六箇所である。<sup>(注3)</sup> 本稿では、そのうち語意・語法・文意・文体、その他何らかの点で、本文批判上のいわば有意異文と目されるもの約二百四十箇所を検討の対象とした。その種の有意異文はすべて取りあげたつもりだが、筆者の能力不足から有意性を発見できずにおつたものも相当数あるかもしれない。

一、第一章では、問題の性質が比較的単純である語意・語法に関わる異文を取りあげ、第二章では、文意・文体に関わる異文を検討する。第三章では、前二章と重複するものもふくめて、河内本による語の添加あるいは削除、語の言いかえについて一括して考察する。各章とも、出てくる順序に文例を掲げて問題点を指摘していき、末尾にまとめとして全体的な考察をのべる。

一、文例は、まず青表紙本の本文を掲げ、傍線を引いた箇所の河内本の異文を括弧内に記す。末尾の漢数字は『源氏物語大成』の頁数である。

## 一、語意語法に関する有意異文

〔語意に関する有意異文〕